

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-323311

(43) 公開日 平成10年(1998)12月8日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

A 4 7 L 13/20

識別記号

F I

A 4 7 L 13/20

B

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-135395

(22) 出願日 平成9年(1997)5月26日

(71) 出願人 000006769

ライオン株式会社

東京都墨田区本所1丁目3番7号

(72) 発明者 加藤 啓育

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72) 発明者 坂本 敬之

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72) 発明者 辻井 宜博

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

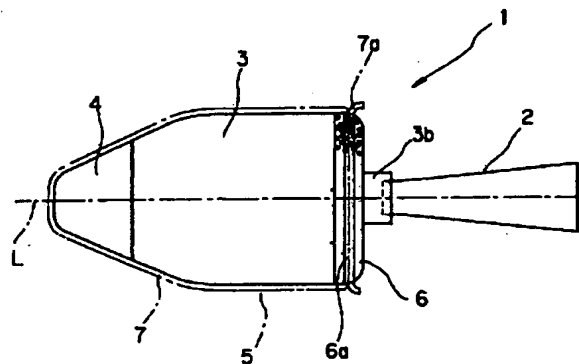
(74) 代理人 弁理士 藤本 博光 (外1名)

(54) 【発明の名称】 掃除具

(57) 【要約】

【課題】 平面箇所、曲面箇所あるいは狭所などの様々な清掃箇所にも対応し得る汎用性に優れた掃除具の提供を目的とする。

【解決手段】 把持部2の先端部に固定された所定の剛性を有するベース体3と、ベース体3の側縁部より外方に突出する突出部材4と、ベース体3及び突出部材4の少なくとも表面部を覆うよう着脱可能に設けられるシート部材7とを備え、突出部材4をベース体3より柔軟性を有する可撓性部材によって構成したものである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 把持部の先端部に固定されたベース体と、前記ベース体の側縁部より外方に突出する突出部材と、前記ベース体及び突出部の少なくとも表面部を覆うよう着脱可能に設けられるシート部材とを備え、前記突出部材とベース体を柔軟性の異なる部材によって構成したことを特徴とする掃除具。

【請求項2】 把持部の先端部に固定された所定の剛性を有するベース体と、前記ベース体の側縁部より外方に突出する突出部材と、前記ベース体及び突出部の少なくとも表面部を覆うよう着脱可能に設けられるシート部材とを備え、前記突出部材をベース体より柔軟性を有する可撓性部材によって構成したことを特徴とする掃除具。

【請求項3】 突出部材は、ベース体の前端部より前方へと突出する先細り形状をなすことを特徴とする請求項1または2記載の掃除具。

【請求項4】 突出部材は、ベース体の両側縁部及び前縁部より突出する柔軟性部材により構成されることを特徴とする請求項1または2記載の掃除具。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、様々な形状部分における清掃作業、特に卓上など、比較的狭小な箇所の清掃作業に好適な掃除具に関する。

【0002】

【従来の技術】机やテーブルなどの比較的狭小な箇所における清掃には、小型で持ち運びにも容易な所謂ハンディタイプの掃除具が使用されている。この種の掃除具としては、短尺なハンドルの先端部に小型なベース体を固定し、そのベース体の下面に刷毛あるいは布などの拭取部を設けたものが一般に用いられている。ところが、このようなベース体に拭取部を固定した掃除具にあっては、拭取部が汚れた場合にその洗浄作業を行わなければならないという煩わしさがあり、取り扱いが面倒になるという問題がある。このため、現在では、拭取部として紙等のシート部材を使用し、これをベース体に対して着脱可能とし、シート部材が汚れた場合には、新たなものと容易に交換し得るようにしたものも提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のようにシート部材を交換可能にした従来の掃除具にあっては、ベース体が剛体によって構成されていたため、そのベース体の形状に対応しない箇所への適用が極めて困難になるという問題があった。例えば、通常は平坦な清掃箇所への適用を想定してベース体の下面を平坦な形状に形成していたため、曲面的な清掃箇所やベース体より狭小な箇所への清掃作業には極めて取り扱いにくいものとなり、汎用性が低いという問題があった。

【0004】本願発明は上記従来技術の問題に着目してなされたものであり、平面箇所、曲面箇所あるいは狭所

などの様々な清掃箇所にも対応し得る汎用性に優れた掃除具の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため本願発明は次のような構成を有するものとなっている。すなわち、本発明は、把持部の先端部に固定された所定の剛性を有するベース体と、前記ベース体の側縁部より外方に突出する突出部材と、前記ベース体及び突出部材の少なくとも表面部を覆うよう着脱可能に設けられるシート部材とを備え、前記突出部材をベース体より柔軟性を有する可撓性部材によって構成したものである。また、前記突出部材としては、ベース体の前端部より前方へと突出するものとすると共にその形状を先細り形状とすることが考えられ、またベース体の両側縁部及び前縁部より突出する柔軟性部材により前記突出部材を構成することも可能である。

【0006】本発明においては、ベース体の外方に突出する突出部材が柔軟性を有しているため、清掃箇所が狭所であったり、曲面形状、平面形状をなす場合にも、その形状に沿って突出部材を変形させながらシート部材を接触させることができ、単一の掃除具によって様々な清掃箇所に適用可能となる。

【0007】

【発明の実施形態】以下、本発明の実施形態を図面に基づき説明する。図1ないし図3は本発明の第1の実施形態を示す図である。この実施形態に示す掃除具1は、机やテーブルなどをはじめ、比較的狭小な箇所に対する掃除に適し、持ち運びも容易な所謂ハンディタイプの掃除具となっている。すなわち、この掃除具1は、片手で把持し易い比較的短尺なハンドル2と、このハンドル2の前端に固定されたベース体3と、このベース体3の前側面部より前方に突出するよう固定した突出部材4と、この突出部材4及び前記ベース体3を囲繞するよう装着されるシート部材7等からなる。

【0008】前記ベース体3は、所定の剛性を有する樹脂成形品によって構成されており、その後端部には、薄型の凸部3aが突出形成されると共に、その凸部3aの後端中央部には、ハンドル取付部3bが固定されており、このハンドル取付部3bにハンドル2が固定されている。なお、ベース体3は、前端部及び側端部に向かうに従ってその厚さが徐々に縮小するような形状をなしており、前記ベース体3の凸部3a外面には、ウレタンフォームなどの高摩擦部材によって構成された環状の係止部材6が固定されている。この係止部材6の上面部及び下面部には幅方向（図1において中心軸線Lと直交する方向）に直線的に延出する係止溝6aが形成されている。

【0009】また、前記ベース体3の前端部には突出部材4が固定されている。この突出部材4は、平面視において先細り形状をなすと共に、その肉厚が前端部及び側

端部に向かうに従って縮小し、その端縁部近傍は高い柔軟性を有するものとなっている。なお、この突出部材4をベース体3へと固定する手段としては、接着剤やねじ等の締着部材を用いたり、ベース体3と突出部材4との二色成形することなどが考えられる。そして、前記ベース体3と前記突出部材4との組み合わせによって滑らかな外面形状をなす支持体5が形成される。

【0010】一方、前記シート部材7は、塵埃などを取り込み易い素材、例えば不織布などを袋状に形成してなり、前記支持体5の外面に密接するような寸法形状をなし、前記支持体5に対して着脱可能となっている。すなわち、このシート部材7は、その開口部周辺を前記係止溝に挿入することによって固定し得るようになっており、また、シート部材7の取り外しは、その開口部周縁7aを係止溝6aから抜脱させることによって容易に行うことができる。

【0011】以上のように本発明の第1実施形態においては、シート部材7の前方部が前記突出部材4によって支持されているため、この突出部材4の柔軟性とベース体3の剛性によって様々な清掃箇所に対応し得るものとなっている。例えば、曲面形状をなす箇所を清掃する場合、この柔軟性を有する部分を清掃すべき箇所に押し当てれば、その曲面形状に応じて突出部材4が撓むため、確実に拭取りを行うことができ、良好な清掃状態を得ることができる。この場合、突出部材4は、剛性の高いベース体3に保持されているため、作業において支持体5全体が撓み過ぎることもなく、清掃箇所に対し作業者の意図する押圧力を適宜加えることができ、良好な使用感を得ることができる。

【0012】また、突出部材4の幅よりも狭小な箇所の清掃を行う場合にも、突出部材4を撓ませれば、掃除具1をその清掃箇所に挿入することが可能であり、突出部材14を覆っているシート部材7によって清掃が可能となる。さらに、テーブルの上面などのように、平坦な部分を清掃する場合には、支持体5の下面に接している平坦な部分を押し当てて清掃作業を行えば良い。このように、この実施形態における掃除具1によれば、様々な箇所の清掃に対応することができるため、種々の掃除具を用意する必要がなく経済的であり、保管、管理なども容易である。

【0013】ところで、上記実施の形態においては、突出部材4をベース体3の先端部のみ固定して支持体5を形成したが、図4に示す第2の実施形態のように、ベース体3と、その先端部及び下面を覆う突出部材14によって支持体15を形成しても良い。これによれば、支持体14の下面部14a全体が柔軟性を有するものとなるため、比較的小さな凹凸部分を有する清掃面であれば、支持体14の下面全体に位置するシート部材7を前記清掃面に同時に押し当てることができ、一回の拭取動作による拭取面積を大幅に向上させることができるた

め、より効率的に作業を行うことができる。なお、図2中、上記第1の実施形態と同一もしくは相当部分には、同一符号を付してある。

【0014】また、図3及び図4は本発明の第3の実施形態を示す平面図、及び一部縦断側面図である。この第3の実施形態における掃除具20は、平面視において先細り形状をなすベース体23の下面に、薄肉板状の突出部材24を固定することにより、シート部材7の支持体25を構成したものとなっている。前記ベース体23は、所定の硬度を有する樹脂成形品となっており、その後端部には、上記実施形態と同様に凸部23a及びハンドル取付部23bが設けられ、凸部23aには係止部材6が、ハンドル取付部23bにはハンドル2がそれぞれ固定されている。

【0015】また、前記突出部材24は、可撓性部材によって形成され、前記ベース体23より大形の平面形状をなしており、その外縁部24aが前記ベース体23の前方部及び左右両側部から外方に突出している。そして、上記支持体25の外面には、袋状のシート部材7が着脱可能に装着されるようになっている。このシート部材7のベース体23への固定、取外しは、上記各実施形態と同様にシート部材7の開口部近傍7aを掛止溝6aに係脱させることにより行うことができる。

【0016】このように構成された掃除具20によれば、平坦な清掃箇所に対しては、平坦な形状をなす支持体25の下面に位置するシート部材7を全面的に接触させて清掃すれば良い。また、曲面形状をなす清掃箇所に対しては、その曲面形状に沿って突出部材24の外縁部24aを撓ませ、各部に位置するシート部材7を接触させて拭取りを行えば良く、これによって拭き残しなく、良好な拭取状態を得ることができる。さらに、突出部材24が薄肉板状をなしているため、この突出部材24より狭小な部分に対しても突出部材24の外縁部24aを撓ませることによって掃除具20を狭小な箇所へと挿入することができ、拭取作業を行うことができる。

【0017】ところで、上記実施形態においては、突出部分の外縁部が連続する曲線形状をなすものとしたが、図7に示す第4の実施形態のように、突出部材24の外縁部24aを複数の凹部24a1、凸部24a2からなる波形形状に形成しても良い。この実施形態における掃除具30によれば、シート部材7が内方から凸部24a2との点接触によって押圧されるため、この点接触部分を清掃箇所に当接させれば、面接触、あるいは線接触させる場合に比べ、小さな操作力でより大きな押圧力を清掃箇所に加えることができ、強固に付着した汚れ等も比較的小さな力で除去することができる。

【0018】なお、この第4の実施形態においては、第3の実施形態における突出部材24の外縁部24aに凹凸部を形成したが、第1、第2の実施形態における突出部材4、14に凹凸部を形成しても良く、また、凹凸部

10

20

30

40

50

の形状も先鋭形状など種々の形状が適用可能であり、さらに、凹凸部の形成位置を突出部材における外縁部全体ではなく、一部に形成しても良い。

【0019】また、シート部材は必ずしも袋状をなすものに限らず、平坦なものとし、支持体の下面部を包み込み、係止部材によって掛止させるようにすることも可能であり、係止部材としても、上記実施形態に示したものに限らず、シート部材を挟持するような機構を設けても良い。さらに、上記実施形態では、短尺なハンドルを有する所謂ハンディタイプの掃除具を例にとり説明したが、広面積を有する支持体に長尺なハンドルを装着し、立ち上がった状態で床などの広い清掃箇所を掃除するようなものにも本願発明は有効である。

【0020】また、上記実施形態においては、ベース体を剛体により構成し、突出部材を柔軟性を有する部材によって形成した場合を例にとり説明したが、清掃すべき対象物などによっては、その対象物と接する部分（例えば突出部材）を所定の剛性を有する部材によって形成し、それ以外の部分（例えばベース体）を柔軟性を有する部材によって形成しても良い。これによれば、サッシのレールやキーボードなどのような狭小で直線的な部分を清掃する場合などに極めて有効であり、良好な使い勝手を得ることができる。

【0021】

【発明の効果】以上説明した通り本発明によれば、所定の剛性を有するベース体にその側縁部より外方に突出する突出部材を設け、その突出部材を柔軟性を有するものとしたため、清掃箇所が平面形状である場合は勿論、曲面形状をなす場合、あるいは突出部材より狭小な箇所でも\*

\*あった場合にも、各清掃箇所に沿って突出部の形状を対応させながらシート部材を接触させることができ、確実に清掃作業を行うことができるため、様々な清掃箇所に適用可能となり、優れた汎用性を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の第1の実施形態を示す平面図である。

【図2】本願発明の第1の実施形態を示す一部縦断側面図である。

10 【図3】本発明の第1の実施形態に適用するシート部材を示す斜視図である。

【図4】本発明の第2の実施形態を示す一部縦断側面図である。

【図5】本発明の第3の実施形態を示す平面図である。

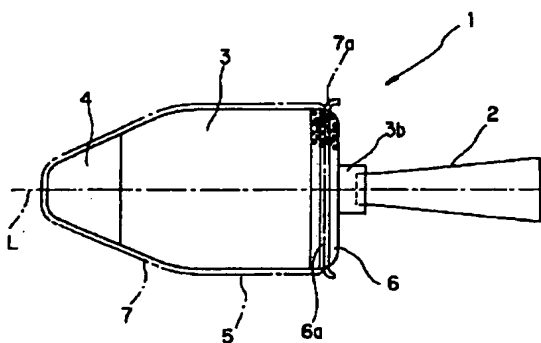
【図6】本発明の第3の実施形態を示す一部縦断側面図である。

【図7】本発明の第4の実施形態を示す平面図である。

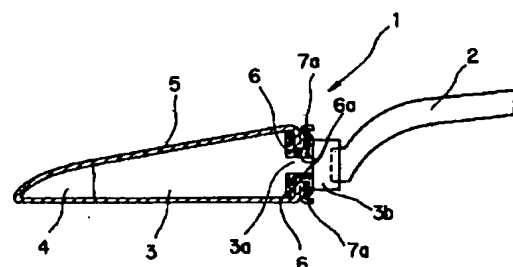
【符号の説明】

- 1 掃除具
- 20 2 ハンドル（把持部）
- 3 ベース体
- 4 突出部材
- 7 シート部材
- 10 掃除具
- 14 突出部材
- 20 掃除具
- 23 ベース体
- 24 突出部材
- 30 掃除具

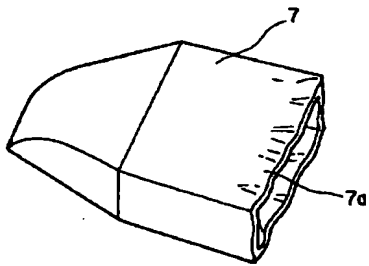
【図1】



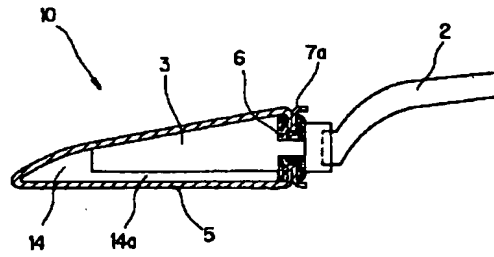
【図2】



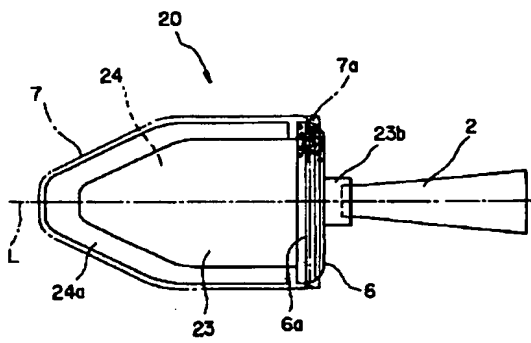
【図3】



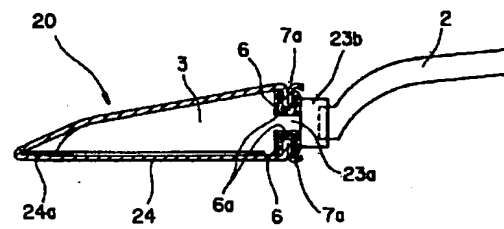
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

